

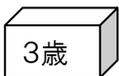
毎年のことですが、年長のリレーが始まり、年中の修行が始まり、一人ひとりが走る姿やジャンプしようかしまいか、思い切りの狭間にいる子どもたちを見ていると少しジーンとしてしまいます。「頑張れ！」と心の中で叫びつつ、うまくいかなくても、やろうとしたその姿勢を声に出して褒めてあげようと思っています。年少さんはただニコニコ走ることができたら大満足です。

忍者も現れてくれました。決してダイナミックではなかった?! ですが小ナミック、いや年中なので中ナミックに参上してくれてホッとしています。きっと子どもたちは、忍者さんに聞いてみたいこと沢山あるのではないのでしょうか。私も忍者さんに聞いてみたいことありました。そんな折、体操のタイゾー先生も年長の前に姿を見せてくれました。タイゾーとは帰り際に少し話せたので、せっかくなのでひとつ聞いてみました。

少しばかり兄貴ツラをして、「なんで運動会ってあるのかねえ？」と聞くと彼は悩みもせず「The time has come!」とグーチャーパーの変顔をして答えました。議論している時間はなく彼は空港に向かってしまいました。思うに「その時が来た」とは秋だからとか季節のことではないようです。これまでの園生活でのあそびを通して、または集団生活でのクラスの営みの中で、自信と体力と体を動かす喜びとみんなでのひとつのことをやる達成感、力を合わせるという感覚をなんとなくでも理解できる、そんな時期が来たから運動会という名のもとみんなで作ってみよう!ということである、と解釈できます。

付け加えておこなら、子どもたちにとってはいいことばかりではないでしょう。苦手意識や上手いできないこと、緊張、照れなど心の中での葛藤はきっとあるはず。それでも運動会を行うのは、彼らにとってプラスの面がマイナスの面をはるかに上回るからなのだと思います。忍者さんも英語はわからなかったとしても、多分同じことを言うのではないのでしょうか。「君たちなら大丈夫、機は熟した!」と。

今月のねらい（育ってほしい姿や経験してほしいこと）



- ・ 簡単な集団遊びに興味をもち、ルールなども理解してくる
- ・ 運動会が終わった後も、友達とかけっこやダンスをしたり、年中・年長児の競技をまねたりしながら、新たな遊びに挑戦してみようとする
- ・ 散歩などをしながら、秋の自然に興味、関心をもち、触れて遊ぶ



- ・ クラスのみんなと一緒にする遊びや活動に、喜んで取り組もうとする
- ・ 仲間のよさを認め合い、評価し合える雰囲気ができる
- ・ 自分なりの思いやイメージをいろいろな方法で表現したり、相手に伝えようとする



- ・ 運動会を体験したことにより、クラスや学年など集団のまとまりが強くなっていく
- ・ 友達と考えを出し合いながら、互いのアイデア、イメージを共有できる
- ・ 様々な材料に触れ、素材の特徴を感じながら、製作あそびを楽しむ